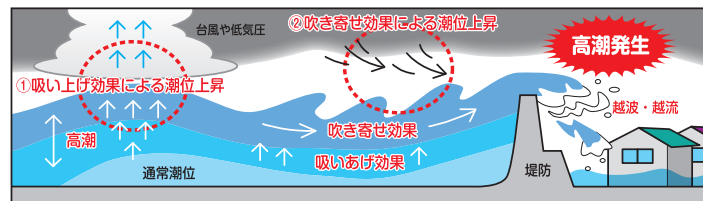


3-8. 高潮について

高潮発生の仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により潮位(海面)が高くなる現象です。主な原因としては次のとおりです。



①気圧低下による吸い上げ

台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1hPa(ヘクトパスカル)下がると、潮位は約1cm上昇と言われています。

②風による吹き寄せ

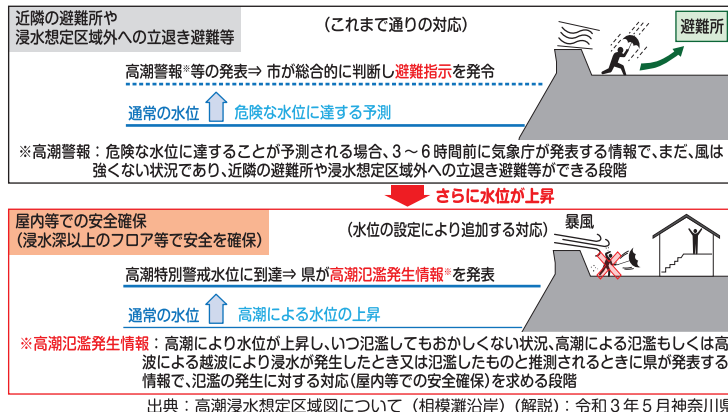
台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。風速が2倍になった場合、海面上昇は4倍となります。

状況に応じた避難行動

神奈川県では、高潮による災害の発生を特に警戒すべき水位として、「高潮特別警戒水位」を設定しました。

検潮所の水位がこの水位に達した場合には、県は「高潮氾濫発生情報(避難情報等における警戒レベル5相当情報)」を発表します。台風による強風や大雨、またはすでに高潮発生が予想されるため、立退き避難は危険な場合があります。状況に応じた避難行動をとしましょう。

鎌倉市における高潮特別警戒水位
T.P.+1.10m(油壺検潮所)



「鎌倉市高潮ハザードマップ」について

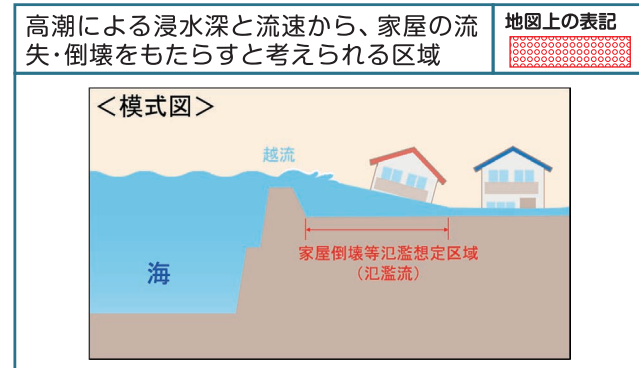
この「鎌倉市高潮ハザードマップ」は、神奈川県が令和3年8月に公表した「高潮浸水想定区域図」を基に、避難所等の情報を合わせて示したマップです。

「高潮浸水想定区域図」とは

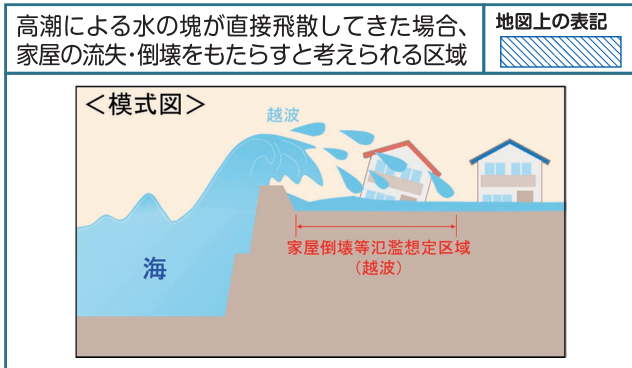
- 水防法(昭和24年法律第193号)第14条の3に基づき、国内観測史上、最も大きな台風が、沿岸に最悪の被害を与える経路で襲来した場合の最大となる高潮浸水区域、浸水深及び浸水継続時間をシミュレーションにより予測したものです。
- 高潮浸水想定区域図は、地面の高さを基準とした浸水深を示したものであり、地下街等の地下空間の浸水については反映していませんが、実際には、高潮が地下空間に流入する場合もあります。
- 道路のアンダーパスや造船所のドックなど、周辺の土地より極端に地盤が低い箇所では、局所的に浸水深が深くなります。
- 台風等により高潮が発生する状況では、同時に降雨も想定されるため、一級、二級河川については、河川整備の目標とする降雨による洪水が同時に発生した場合を想定しています。
- 高潮による河川内の水位変化を図化していませんが、高潮の遡上等により、海岸から離れた地域でも河川から浸水することが想定されます。
- 高潮浸水想定区域図では、浸水シミュレーションで再現しきれない局所的な地盤の凹凸や建築物の影響があること、想定していない雨水出水(内水)が発生することなど、浸水想定区域以外でも浸水が発生したり、浸水深が深くなる場合があります。
- この区域図は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した台風から設定したものであり、これよりも大きな高潮が発生しないというものではありません。
- 詳細については、神奈川県 HP をご確認ください。(https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/takashio/sagami-bay.html)

家屋倒壊等氾濫想定区域(高潮)

①氾濫流



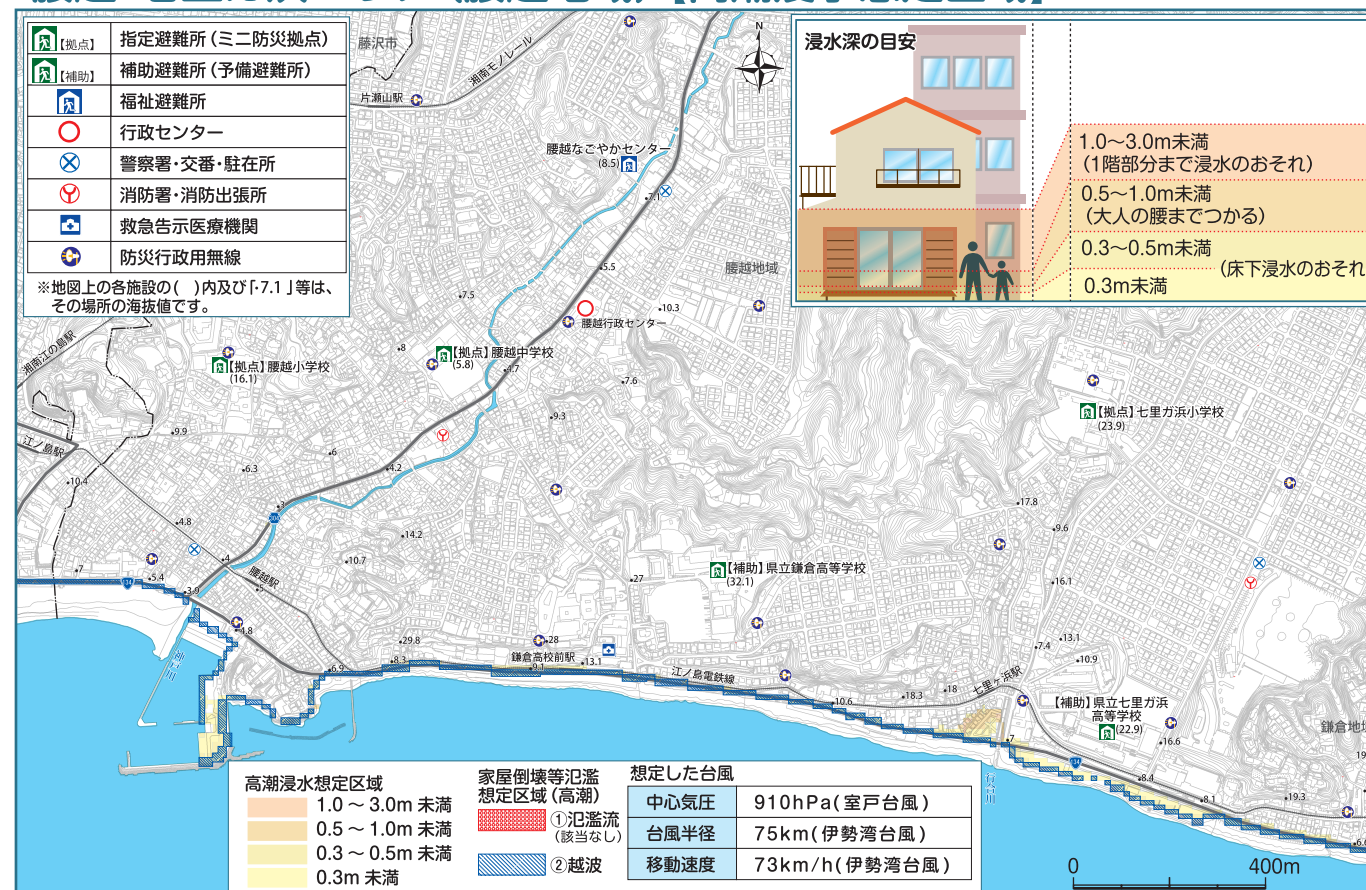
②越波



出典：高潮浸水想定区域図について(相模灘沿岸)(解説)：令和3年5月神奈川県

3-9. 鎌倉市 高潮ハザードマップ①

腰越・七里ガ浜エリア(腰越地域)【高潮浸水想定区域】



腰越・七里ガ浜エリア(腰越地域)【高潮浸水継続時間図】



高潮浸水継続時間図は、浸水深が0.5mを超えてから0.5mを下回るまでの時間を示したものです。浸水が長期にわたると、立退き避難せず自宅の2階などに待避した場合、電気・ガス・水道などのライフラインが使えなくなったり、水や食料などがなくなるおそれがあります。普段から備蓄を心がけましょう。

この地図の作成に当たっては、藤沢市の承認を得て、同市発行の2500分の1図を使用した